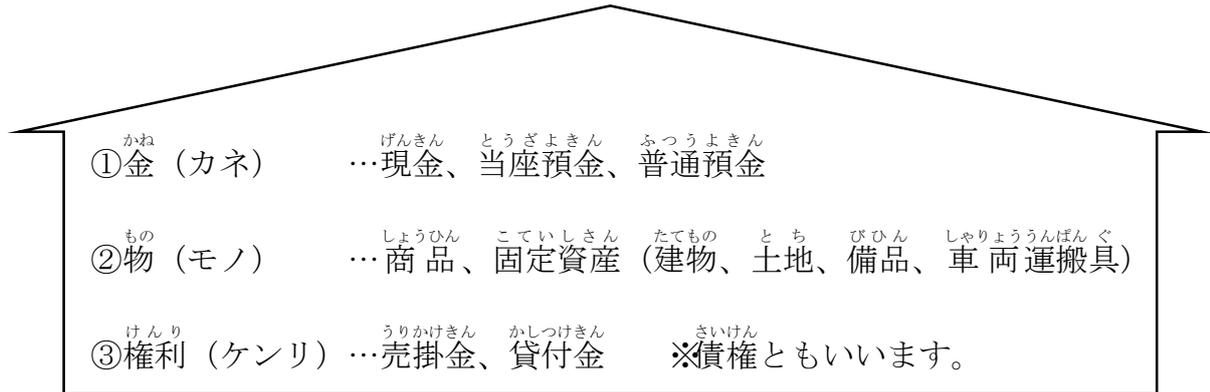


21	財産には、何がある？	…資産の意味
----	------------	--------

企業（個人商店、会社など）が社内で所有している財産には、大きくつぎの3種類があります。



これらの財産を、簿記の世界では「資産」と呼びます。

資産が増えたら、勘定口座の左側に増加した金額を書きます。

資産が減ったら、勘定口座の右側に減少した金額を書きます。

※資産が100円増えたとき

現金	商品	売掛金
100	100	100

※資産が50円減ったとき

現金	商品	売掛金
50	50	50

【例題 2 1】

1. 次の説明にもっとも適した勘定科目名を（ ）に書きましょう。

- ①販売することを目的に仕入れ先から購入した品物（ ）
- ②得意先へ営業に行くために購入した中古車（ ）
- ③得意先に販売した物品の売上代金で未回収のもの（ ）
- ④代金回収のために受け取った得意先振出しの小切手（ ）

2. 次の取引を勘定記入してみましょう。

- (1) 売掛金 100,000 円を得意先振出しの小切手で受け取った。
- (2) 翌日、回収した得意先振出しの小切手を当座預金口座に預け入れた。
- (3) 売掛金 150,000 円を得意先振出しの小切手で受取り、ただちに当座預金口座に預け入れた

現 金	
(1)	(2)
当座預金	
(2)	(3)
売 掛 金	
(1)	(3)

(ヒント) 「・・・小切手で受取り、ただちに当座預金に預け入れた」といった場合は、いったん現金を増やしてから減らすという手間をかけずに、すぐに当座預金の増加とするのが一般的です。

22	返済義務にはどんなものがある？	…負債の意味
----	-----------------	--------

かりいれきん かいかけきん きょうつうてん かんが  
借入金と買掛金の共通点を考えてみましょう。



いずれも、「将来のどこかで相手に支払いをする約束」をしています。

これら支払い義務や返済の義務を、法律の用語で「債務」といいます。

言い換えると、「債務」を「負」っている状態であることから、簿記の世界で

は、買掛金や借入金などのことを「負債」とも呼ぶのですね。

負債が発生すると、勘定口座の右側に書くのがお約束です。

※負債が100円増えたとき

買掛金	借入金
100	100

※負債が50円減ったとき

買掛金	借入金
50	50

【例題 2 2】

- 次の説明にもっとも適した勘定科目名を（ ）に書きましょう。  
借入金や（ ）などの債務を、簿記では（ ）と呼ぶ。
- 次の取引をもとに、資産と負債の増減表に金額を記入しましょう。  
なお、増えれば「+100」、減れば「-100」のように書いてください。  
3月1日 現金 10,000 円、売掛金 0 円、商品 0 円、備品 7,000 円、  
買掛金 0 円、借入金 5,000 円の残高だった。  
5日 商品 15,000 円を仕入れ、代金は掛けとした。  
10日 商品 22,500 円（原価 13,500 円）を掛けで売り渡した。  
22日 銀行に対し、借入金 2,000 円を現金で返済した。

	現金	売掛金	商品	備品	買掛金	借入金
3月1日	10,000	—	—	7,000	—	5,000
5日						
10日						
22日						
月末残高						

資産残高（ ）円      負債残高（ ）円

(参考) 取引の勘定記入例

現 金	
1日 10,000	22日 2,000
売掛金	
10日 22,500	
商 品	
5日 15,000	10日 13,500
備 品	
1日 7,000	

【負債の勘定科目】

買掛金	
	5日 15,000
借入金	
22日 2,000	1日 5,000
商品売買益	
	10日 9,000

23	<sup>てんしゅ もちぶん</sup> 店主の持分とは？	<sup>じゅんしさん い み</sup> …純資産の意味	
----	----------------------------------	----------------------------------	--

たとえば、お店の中に<sup>おみせ なか</sup>資産として<sup>しさん</sup>現金<sup>げんきん</sup> 100,000 円・<sup>えん</sup>売掛金<sup>うりかけきん</sup> 200,000 円・<sup>えん</sup>商品<sup>しょうひん</sup> 300,000円・<sup>えん</sup>車両運搬具<sup>しゃりょううんぱんぐ</sup> 400,000円があったとしましょう。<sup>えん</sup>合計すると 1,000,000 円（100,000+200,000+300,000+400,000）の<sup>しさん</sup>資産があります。

もし、お店をやめて<sup>みせ</sup>資産を<sup>しさん</sup>ぜんぶ<sup>いま</sup>今の<sup>ちょうぼ</sup>帳簿に<sup>きろく</sup>記録されているのと同じ<sup>おな</sup>金額で<sup>きんがく</sup>換金<sup>かんきん</sup>処分（<sup>お金</sup>にお金<sup>かね</sup>に<sup>か</sup>換えること）ができるとしたら、<sup>げんきん</sup>1,000,000 円の<sup>て</sup>現金が<sup>はい</sup>手に入りますね。

しかし、いっぽうで、銀行からの借入金 350,000 円と仕入先への買掛金 290,000 円があったとします。合計で 640,000 円の負債です。

こうなると、<sup>しさんごうけい</sup>資産合計<sup>えんぶん</sup>1,000,000円分の<sup>げんきん</sup>現金がすべて店主のものではなく、<sup>ふさいごうけい</sup>負債合計<sup>ひ</sup>640,000 円を<sup>のこ</sup>引いた<sup>てんしゅ</sup>残り<sup>もちぶん</sup>360,000 円が店主の持分になります。

つまり、「資産1,000,000 円－負債640,000 円＝360,000 円」が、お店の<sup>みせ</sup>資産合計<sup>しさんごうけい</sup>のうち、<sup>しょゆうしゃ</sup>所有者である店主の<sup>てんしゅ</sup>持分（<sup>もちぶん</sup>取り分）となります。店主の持分は簿記で  
は純資産と呼ばれます。

※ 資産－負債＝純資産、または資産＝負債＋純資産の関係になります。

なお、日商簿記 4 級や 3 級が対象とする<sup>こじんきぎょう</sup>個人企業において、純資産を構成す  
る勘定科目は「資本金」だけです。

【例題 2 3】

1. 次の式の ( ) に正しい言葉を書きましょう。

$$\text{資産} - \text{負債} = ( \quad )$$

$$\text{資産} = ( \quad ) + \text{負債}$$

2. 次の取引をもとに、資産と負債の増減表に金額を記入しましょう。

なお、増えれば「+100」、減れば「-100」のように書いてください。

3月1日 現金 10,000 円、売掛金 0 円、商品 7,000 円、  
買掛金 0 円、借入金 5,000 円、資本金 12,000 円の残高だった。

5日 商品 15,000 円を仕入れ、代金は掛けとした。

10日 商品 22,500 円（原価 13,500 円）を掛けで売り渡した。

22日 銀行に対し、借入金 2,000 円を現金で返済した。

	現金	売掛金	商品	買掛金	借入金
3月1日	10,000	—	7,000	—	5,000
5日					
10日					
22日					
月末残高					

$$\text{資産} ( \quad ) \text{円} - \text{負債} ( \quad ) \text{円}$$

$$= \text{純資産} ( \quad ) \text{円}$$

24	<small>とりひき いちぎょう きろく ほうほう</small> 取引を一行で記録する方法って？	<small>しわけ</small> …仕訳
----	---	---------------------------

これまでは、勘定口座（T字）に取引を記録する方法を学びました。

じつは、簿記には「仕訳」というもうひとつの記録方法があります。

取引を勘定口座の別に分類・集計する前に、いったん、取引が起こった日付

や順番のとおり、取引の全体を日記のように書く方法です。

具体的には、次のように用紙を左と右に分けて、横に並べて書きます。

※仕訳の記入例…銀行から現金10,000円を借入れた。

<small>かりかた</small> (借方)	<small>げん</small> 現	<small>きん</small> 金	10,000	<small>たいかた</small> (貸方)	<small>かり</small> 借	<small>いれ</small> 入	<small>きん</small> 金	10,000
-----------------------------	------------------------	------------------------	--------	-----------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	--------

このような仕訳を書く帳簿を仕訳帳といいます。

簿記の昔からの習慣で、左側を「借方」、右側を「貸方」といいます。

仕訳の書き方は、勘定口座（T字）の書き方と基本的な考え方は同じで、た

とえば現金などの資産が増えれば左側に書き、減れば右側に書きます。

実際の記帳を行うときは、取引が起きたら①仕訳をし、その内容を②該当す

る勘定口座（T字）に書き写す（転記という）ようにします。

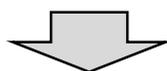
なお、すべての勘定口座がある帳簿を「総勘定元帳」といいます。

【例題 2 4】

次の取引を①仕訳帳に仕訳し、②総勘定元帳へ転記しなさい。

- 5 日 商品 15,000 円を仕入れ、代金は掛けとした。
- 10 日 商品 22,500 円（原価 13,500 円）を掛けで売り渡した。
- 22 日 銀行に対し、借入金 2,000 円を現金で返済した。

－ 仕 訳 帳 －	
5 日 かりかた (借方)	かしかた (貸方)
10 日 かりかた (借方)	かしかた (貸方)
22 日 かりかた (借方)	かしかた (貸方)



－ 総 勘 定 元 帳 －			
現金	買掛金	借入金	商品売買益
22日	5日		10日
売掛金	借入金	商品売買益	商品売買益
10日	22日		
商品	商品売買益	商品売買益	商品売買益
5日   10日			

練習問題 6	…21～24 の復習
--------	------------

問題 1 次の勘定科目を資産・負債・純資産（資本）・収益・費用に属するものに分けてみましょう。

- ア. 借入金    イ. 商品売買益    ウ. 資本金    エ. 広告宣伝費  
 オ. 現金    カ. 支払地代    キ. 土地    ク. 買掛金  
 ケ. 給料    コ. 受取利息

資 産	負 債	純資産(資本)	収 益	費 用

問題 2 次の取引をもとに、資産と負債の増減表に金額を記入しましょう。

なお、増えれば「+100」、減れば「-100」のように書いてください。

- 4月1日 現金 50,000 円、売掛金 10,000 円、商品 20,000 円、  
 買掛金 8,000 円、借入金 32,000 円、資本金 40,000 円。  
 4日 商品 18,000 円を仕入れ、代金は掛けとした。  
 11日 商品 30,000 円（原価 20,000 円）を掛けで売り渡した。  
 25日 仕入先に買掛金 8,000 円を現金で支払った。

	現金	売掛金	商品	買掛金	借入金	資本金
4月1日	50,000	10,000	20,000	8,000	32,000	40,000
4日						
11日						
25日						
月末残高						

資産 (            ) 円

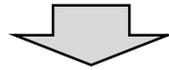
負債 (            ) 円

↓  
 純資産 (            ) 円

問題3 次の取引を①仕訳帳に仕訳し、②総勘定元帳へ転記しなさい。

- 4日 商品 18,000 円を仕入れ、代金は掛けとした。
- 11日 商品 30,000 円（原価 20,000 円）を掛けで売り渡した。
- 25日 仕入先を買掛金 8,000 円を現金で支払った。

－ 仕 訳 帳 －	
4日 かりかた (借方)	かしかた (貸方)
11日 かりかた (借方)	かしかた (貸方)
25日 かりかた (借方)	かしかた (貸方)



－ 総 勘 定 元 帳 －	
現 金	買掛金
25日	25日
売掛金	商品
11日	商品売買益
商 品	商品売買益
4日	10日